

〔萬葉集十二〕古今相聞往來歌〔寄物陳思

五更之目不醉草跡此乎谷見乍座而吾止憇爲

〔源氏物語四〕夕顔曉ちかくなりけるなるべしとなりの家々あやしきしづのおの聲々めさまし

て○下略

〔名物六帖人事四〕體勢作用○醒睡夜間常醒睡

〔書言字考節用集八〕言辭○寐覺

〔倭訓栞前編二十二〕ねざめ 寢覺と書りいねて目のさむるなり

〔萬葉集十九〕夜裏聞千鳥喧歌二首

夜具多知爾寢覺而居者河瀬尋情毛之奴爾鳴知等理賀毛

源兼昌

〔金葉和歌集四〕關路千鳥といへる事をよめる

あはぢ島かよふ千鳥のなく聲にいくよねざめぬ須摩の關守

〔倭訓栞前編四十五〕おどろく○中 夢を驚かすなどいふは日本紀に寤をおどろかしとよめる

意也令驚の義也おどろきを延ておどろかしといふ一格の例あり

〔古事記上〕其天詔琴拂樹而地鳴動故其所寢大神能男命聞驚而引仆其室

〔萬葉集四〕相聞更大伴宿禰家持贈坂上大嬢歌十五首略○中

夢之相者苦有家里覺而搔探友手二毛不所觸者

〔遊仙窟〕少時坐睡則夢見十娘驚覺攪之忽然空手

〔伊呂波字類抄人事〕居處也當也 坐處集搶座踞已上同

〔釋名三〕釋姿容坐挫也骨節挫屈也

〔和字正濫抄三〕居をる 万葉

坐